

親のかかわりについて考える

校長 金泉 隆一

先日ふとみたエッセイを紹介します。ナツキレイさんという方が書かれたものです。たいへん興味深く読みましたので、保護者の方の参考にもなると思われましたので紹介いたします。

子どもの性格形成には、「遺伝」と「生活環境」の両方が大きく関わっていると言われていています。心理学の研究結果によると、性格形成の核ともなる「気質」は遺伝によるものが多いとか。一方、親との関係を含めた生活環境の影響を受けながら、その「気質」を包み込むように性格は形成されていくそうです。

つまり、親との関係や家庭環境などにより、子どもの性格は大きく変わってしまうということ。あなたは子どもの性格形成に悪影響を及ぼす「NG行動」をとっていませんか？

誰かと比べる → 劣等感をもつ子になる

日常の中で、兄弟同士、あるいは子どもの友達、近所の子、親戚の子など、他の子どもと自分の子どもを比べるような発言をすることはありませんか？親ならば当然「お兄ちゃんはもっとしっかりしていたのに、どうして弟は1人で何もできないのかしら？」など、無意識のうちに比べてしまうものです。けれど、それを子どもに言ってしまうと、劣等感をもつ子どもになってしまうので注意しましょう。批判的な内容は子どもの心を傷つけ、自信が持てなくなるばかりか、妬みやすい性格になってしまいます。思うところがあっても、親はそれを心の中に秘めておいた方がいいでしょう。

過保護 → 自己中心的な子になる

「子どもに対して過保護になるのは子どものためにならない」とよく言われますが、親が過保護になるとどのような悪影響があるのでしょうか？実は過保護には、世話を焼きすぎる「支配的な過保護」と、子どもの言いなりになる「服従的な過保護」があります。何にでも首を突っ込んで世話を焼く「支配的な過保護」を受けた子どもは「自発的に考える力」が養われず、「服従的な過保護」の場合は「我慢ができない子」になってしまいます。どちらにしても自立心の芽生えを妨げて精神的に成長できず、自己中心的な考えばかりするようになってしまうでしょう。親の最大の役目は、子どもを独り立ちさせること。何でもしてあげるのは愛情ではありません。本当に必要なときにだけ、手を貸すようにしたいものです。

結果オンリー → 努力しない子になる

結果は日頃の努力の成果ですから、もちろん大切です。しかし、結果しか見ないで評価するのは危険です。なぜなら結果が良くても悪くても、その結果だけで子どもを評価すれば、子どもは「努力の大切さ」がわからなくなってしまふからです。当然、テストや発表会など日々の努力の結果を褒めることは多々あることですが、そんなときには良い結果につながった「過程」を褒めてあげるようにしましょう。例えば、「すごいね！100点とったんだ！いつも頑張ってたからだね！」などと褒めてあげるといいですよ。「100点！やっぱり頭がいい子なのね！」など、結果オンリーの褒め方はオススメできません。

支配的 → 神経質な子になる

「子どもは親の言うことを聞くもの」と考える上から目線の支配的な態度は、子どもを萎縮させるだけでなく、必要以上に神経質な性格が形成されてしまう恐れがあります。「これをしなさい！」「それはしてはいけない！」と子どもをコントロールするばかりか、悪い結果が出たときに「言う通りにしないからダメなんだ！」と子どものせいにするのは最悪です。子どもはどのようにして悪い結果になったのか理解することができず、常に細かいことを気にするようになってしまうでしょう。どんな小さな子でも人格をもつ1人の人間です。親は子どもを支配するのではなく、良い方向へ導くようにしてあげたいものです。

気分屋 → 人の顔をうかがう子になる

親が気分屋だとその時々で親の意見が変わってしまうので、子どもはどのように行動すればいいのかわからなくなってしまいます。その結果、「今は大丈夫かな？」「何だかわからないけど怒ってるみたいだな」と、親の顔をうかがう子になっていきます。このような癖がつけば、家庭以外の場でも常に人の顔をうかがうようになり、自発的な行動ができない消極的な性格になってしまうでしょう。気分の浮き沈みはなかなか自分でコントロールできないものですが、子どもが困惑しないように、コロコロと態度や意見を変えないよう、心がけてみてください。

心当たりのあるものはありましたか？大人も感情をもつ人間ですので、子どもに必要以上に強くあたってしまうようなこともあるかもしれません。しかし、その大人の行動や言動の一つ一つが子どもの性格形成に大きく影響することを忘れないようにしたいものです。

「子どもは、親が思うようには育たない！

親が子どもにしたようにしか、子どもにやったようにしか育たない！」

と話していた人がいます。「確かに・・・」と、自分の子育てを振り返る私が・・・います。

いよいよ3月。今年度もあと1ヶ月となりました。

3月は1年間のまとめの時期であり、新しい出発への準備の時期でもあります。

1年間のまとめをしっかりと、新しいスタートが切れるよう、新しい学年に向けての準備をしてほしいと思います。



3月行事予定

日	曜	行事予定	相談室	かへいキッズ (年)	あいさつ当番
1	金	6年生を送る会 おわかれ給食 安全指導	○	2~6	6-2
2	土	あだち子ども百人一首大会 9:30~13:00			
3	日				
4	月	全校朝会		3~6	5-1
5	火	感謝の会(6年生) 4時間授業(1~5年生)	○	1・3・5・6	
6	水	4時間授業		1・2・4	
7	木	パワーアップタイム 音楽集会		2~6	5-2
8	金	特別時程	○	2~6	
9	土	茶の湯教室(開かれた学校づくり協議会主催)			
10	日				
11	月	全校朝会		3~6	5-2
12	火	エンジョイタイム	○	1・3・5・6	
13	水			1・2・4	5-3
14	木	パワーアップタイム 思い出いっぱい集会		2~6	
15	金	特別時程		2~6	
16	土				
17	日	保塚音楽祭 加平小体育館 13:00~			
18	月	全校朝会		3~6	
19	火	卒業式予行練習(6年生) 4時間授業(1~5年生)		1・3・5・6	
20	水	給食終		1・2・4	
21	木	春分の日			
22	金	修了式		2~6	
23	土				
24	日				
25	月	卒業式		3~6	
26	火	春季休業日始			
27	水				
28	木				
29	金				
30	土				
31	日				

修了式についてのお知らせ

本年度の修了式は3月22日（金）です。当日は以下のような予定です。
3月22日（金） 4時間授業 給食なし 12：30頃下校予定
よろしくお願いいたします。

第54回卒業証書授与式についてのお知らせ

第54回卒業証書授与式を、下記の日時に挙行いたします。
当日は在校生を代表して、5年生が出席します。他の学年は休みとなります。

日時：3月25日（月）10時より（受付開始は9：10からです。）

会場：加平小学校体育館

※なお、5、6年生の登校時刻は8：30です。

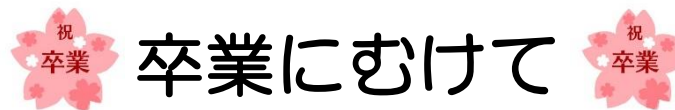


生活指導部より

3月の生活目標

1年のまとめをしよう。
教室をきれいにして次の学年に引き渡そう。

3月は、まとめの月です。一人一人が立てた学習や生活の目標をふり返り、まとめをしましょう。
そして、進学・進級に向け、自分たちが使った教室、特別教室を隅々まで掃除し、次の学年・クラスに気持ち良く引き継いでほしいと思います。



卒業おめでとう！

6年1組 担任 松本 吉光

6年生のみなさんと出会ってから1年が過ぎようとしているのですね。とても早く感じています。加平小学校の第一印象は「建物がキレイ」ということと、「入学式の準備をがんばる6年生が頼もしい！」でした。実際に授業が始まると、最高学年にふさわしい立派な姿に再び驚くとともに、すてきな学校で素晴らしい学年を担当できたことを嬉しく思いました。

日光自然教室や運動会、音楽会など、様々な行事に真剣に取り組む様子、とても立派でした。日々の授業での積極的な姿勢、学校生活における下級生との関わり方、思い出は数え切れませんが、時には厳しく叱ることもありました。そのたびに大きく成長してきましたね。みなさんと共に、私も成長することができた1年間でした。

卒業まであとわずかです。それぞれが自分の将来に向かって大きな一歩を踏み出そうとしている今だからこそ、みなさんの最高の姿を加平小学校に残してほしいと思います。私も全力で応援します。

保護者の皆様、一年間ありがとうございました。あとわずかですが、引き続きよろしくお願いいたします。

～出会いに感謝～

6年2組 担任 草間 優佳

子供たちと過ごした2年間。日々の学校生活や行事を通して一人一人の成長を感じる毎日でした。思春期を迎えた子供たち。伝えたいことが伝わらない…一人一人の笑顔を守るのが仕事なのにそれができていない…私自身、悩むこともたくさんありました。それでも子供の一言や笑顔に救われたり、頑張っている姿に刺激をもらったりする度に先生になって良かったと心から感じることができました。この2年間で強く感じたことは、「子供を信じる」大切さです。宿泊行事、運動会、音楽会など行事はどんなに準備、練習をしても本当に最後まで心配です。でも最後の最後は、「この子たちなら大丈夫！」とどんなときも信じることができました。そして6年生の団結力をいつも見せてくれました。このままみんなの成長を一番近くで感じていたい、まだまだ成長の手助けができれば…とさえ思ってしまう。本当に素敵な2年間でした。一人一人との出会いに心から感謝しています。ありがとう。先生はこれからもみんなの応援団です。みんなの今を、未来をずっとずっと応援しています。がんばれ！！

保護者の皆様、2年間温かく見守っていただき本当にありがとうございました。

<金山 哲也>

僕は加平小学校の6年生として生活した思い出の中で、6年生みんなで合奏した「情熱大陸」が一番印象に残っています。最初は少し音のタイミングがずれるなど小さいミスはありましたが、少しずつ直していき、本番では最高の演奏ができ、音楽の素晴らしさを改めて実感しました。さらに、仲間とともに協力して物事を成し遂げることの大切さを学ぶことができました。これからも音楽を大切に、仲間と共に過ごせる時間を大事にしたいです。

<小林 龍馬>

僕の小学校6年間の中で心に残っているのは、6年生の時の運動会です。特に表現が心に残っています。練習の時失敗をしてしまい、成功できるようになるか心配でした。だから、失敗しないようにたくさん練習をしました。すると、本番では失敗せずに、見事成功することができました。何事もあきらめないように取り組むことの大切さを学ぶことができました。

<青木 佳奈子>

私の中で一番心に残っている行事は、今年度の運動会です。6年生だけで大きく見せるにはどうしたらよいか、どうしたら演技がよくなるかを考えて、学年のみんなに団結の心が生まれたり、運動会全体の準備や後片付けなどを通して“自分たちが良くするんだ”という責任感が生まれたからです。この運動会の記憶を心に焼きつけて、中学校やその後の生活を過ごしていきたいです。

<服部 花音>

私が6年間で最も心に残っているのは、運動会での応援合戦です。私は今年、1年生の時からあこがれていた応援団長になることができました。だからこそ「立派な団長になろう」と決意しました。その結果、練習も本番も、本気で取り組み、やり切ったことで、自分の力をすべて発揮できたと思います。この経験は私にとってとても価値のあるものになりました。これからの中学校生活でも、私は本気でやりきることを大切にしていきたいです。

<石井 優大>

僕が6年間で1番思い出に残っていることは、6年生での連合音楽会です。僕は学校の代表として終わりの言葉を任されました。何度も何度も練習し、本番までに少しでも上達できるように努力しました。当日はとても緊張しましたが、最後まで読むことができました。とても貴重な体験ができたことに感謝しています。中学校でも、本番に向けて練習を重ねる努力の大切さを忘れずに生活に生かしていきたいです。

<矢部 謙心>

小学校生活で1番思い出に残っていることは、委員会活動です。2年間集会委員として活動しました。僕が担当した「水集会」では、準備をするのがとても大変だったけど全校のみんなが楽しんでくれたので嬉しかったです。集会委員で学んだことは、人を楽しませることがすごいことだということと時間を守ることの大切さです。この2つの大切さを忘れず、今後も生かしていきたいです。

<大山 愛>

私が小学校生活の中で特に心に残ったことは、6年生での音楽会です。理由は、音楽会によって人と協力することの喜びを今までで1番強く感じる事ができたからです。練習を重ねれば重ねるほど人と助け合うことのすばらしさやお互いの足りない部分を補っていくことの大切さも学びました。そして6年生全員がいたからこそ出せる、迫力のある音を学びました。音楽会で学んだ、「人と協力することの大切さ」を胸に、様々な人たちと生き、良いもの、よい世の中を作りあげていきたいと思えます。

<亀山 友唯>

私は5年生の時に加平小に転入してきました。この2年間でたくさんの思い出を作ることができました。特に楽しかったのは、「日光自然教室」です。日光東照宮で見た三猿が特に魅力的でした。校内で実施した連合運動会では、100m走に出場し、自己ベストを出すことができました。運動会の徒競走では、念願だった1位を取ることができました。たくさんの思い出、経験があって卒業するのが悲しいです。加平小では、何かに一生懸命になったり夢中になったりすることはとても素敵なことだということを知りました。中学校でも、小学校生活と同じように何事にも一生懸命に取り組んでたくさんの良い思い出を作りたいです。